

【17】

テーマ「大人（地域）の在り方を考える」

タイトル「いじめられる子にも問題があるの？」（小学校高学年以上向き）

【学習のポイント】

○いじめの子がいなければ、いじめは存在しない。いじめを子どもだけの問題としないために、大人として大切なことは何かを考える。

【キーワード】

○子どもの居場所、自尊感情、社会的支援

【すすめ方（85分）】

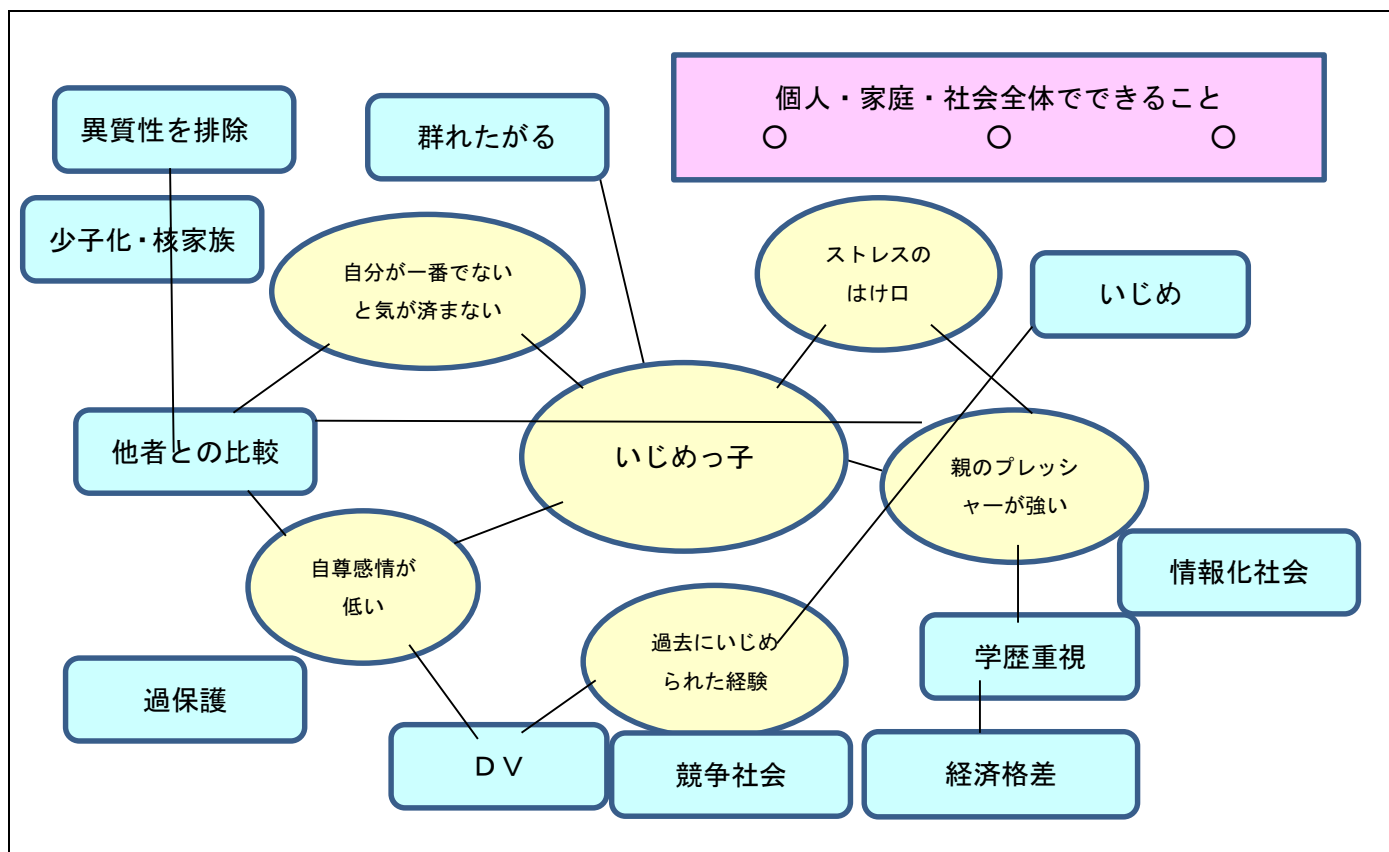
流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	5	1 本研修会のねらいや進め方の説明をする ・話し合いのルール確認（参加・協力・守秘）	<p>■「まじめなおしゃべり」という感覚で、肩の力を抜いて参加してください。（全体の前で意見発表する場面はありません。）</p> <p>参加：進んで参加、パスもOK 協力：みんなで協力、答えを導き出す 守秘：出てきた個人情報、置いて帰る</p>	<p>◆ファシリテーターは自己紹介する。</p> <p>◆「参加・協力・守秘」を板書しておく。</p>
	5	2 アイスブレイクをする	<p>■立ち上がって体を使うレクリエーションをしましょう。（姿勢を正したり、ストレッチしたりするだけでもOK）</p> <p>・子どもの好きなおかず、元気になる食べ物等を出し合いながら自己紹介タイム</p> <p>■今日は、発表の場はありませんので、安心して参加してください。</p>	<p>◆いきなりペアで体の接触があるレクリエーションは避ける。</p>
展開1	30	3 どんな子が“いじめられる子”になりやすいか考える （いじめっ子の特徴をつくり出す背景について考える）	<p>■今日の学習では、子どもたちをいじめに向かわせている背景を考えることを通して、いじめをしない親子の在り方や社会の在り方について一緒に考えていきたいと思います。</p> <p>■まず、模造紙の真ん中に「いじめられる子」と書き、そこから展開例のように枝をだし、いじめられる子の特徴（性格等）を順番に書きましょう。</p> <p>■次に、その特徴（性格等）をつくり出している背景にはどのようなことが考えられるか、書かれている特徴（性格等）から枝を延ばして書きましょう。</p> <p>■さらに、その背景をつくり出している要因はないか考え、あればそこから枝を延ばして、その内容を書きましょう。</p> <p>■関連があると思われる内容を線でつなぎましょう。</p> <p>◆枝がなかなか延びないグループは、他のグループの邪魔にならないように偵察にいつでも構いません。（時間を決めて偵察タイムを設ける。）</p>	<p>◆模造紙の使い方について展開例を示しながら説明していく。</p> <p>◆黒マジックを全員が持ち記入する。</p> <p>◆会話をしながら思いつくものから記入するよう助言する。</p> <p>◆考えた内容は単語でも文章でもよいことを助言する。</p> <p>◆出にくい班には、一例を出す。</p> <p>◆いじめの原因は家庭に問題があるとは限定的にならないよう、社会的な背景に目を向けるように助言する。</p>
展開2	20	4 いじめに向かわせないためにできることについて考える	<p>■様々な要因が子どもをいじめに向かわせているのではないかとということが考えられます。</p>	<p>◆日常生活と結びつけて考えるよう助言する。</p>

		※模造紙のあいている箇所に記入	<ul style="list-style-type: none"> ■では、個人で、家庭で、社会全体で取り組めそうなことを自由に話し合い、空いている箇所に（赤マジックで）書き、四角で囲みましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ファシリテーターは、話合いの内容を把握しておく。 ◆会話をしながら記入するよう助言する。
まとめ	10	5 ギャラリーウォークをする	<ul style="list-style-type: none"> ■他のグループの活動の成果を見て回しましょう。 ■「共感した」考えにはシールを貼りましょう。 ■この活動を通して気付いたことを話し合しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「共感シール」等配付する。
	5	6 元のグループに戻って話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ■絶対にいじめに向かわない子を育てる為に、大切なことを皆さんで共有したいと思います。 ・大人が話合いで出たキーワードに振り回されないことが大切であることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆まとめる必要のないことを確認する。
	10	7 ファシリテーターのまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ■最後に、資料を読みます。家庭で、今日の研修について話をしてもらえたらと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ファシリテーターの経験も交えながらまとめを行う。 ◆発表の場を持たないので、ファシリテーターは、各班の意見を積極的に聞き、あとで紹介する。 ◆資料を配布する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッサー ・大人のいじめ対応姿勢5カ条

※資料については、子どもに対する偏見や差別をなくす取組の参考になるものが望ましい。

参考：東京電力福島第一原子力発電所事故により避難している福島県民に対する偏見や差別、とりわけ県外に避難している子どもたちに対する偏見や差別をなくすよう十分な施策を求める会長声明

展開例



資料1

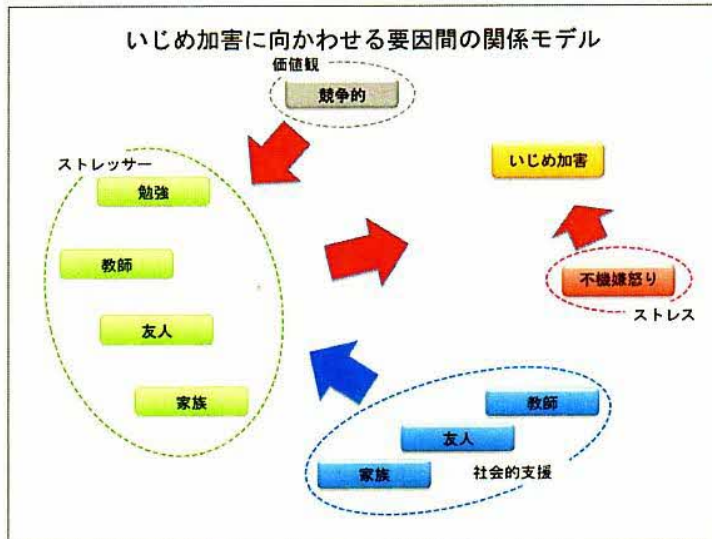
「いじめの追跡調査2007～2009 いじめQ&A」 (国立教育政策研究所生徒指導研究センター)

いじめに向かわせる要因は、何か？

『いじめ追跡調査2004－2006 Q&A』では、相関係数を手がかりに、いじめの未然防止に有効な対策は、①ストレスの原因となるストレスラーを減らすこと、②ストレスがあっても行為に及ばないようハードルを高くする(規範意識を高める)こと、の二通りが中心になるであろうことを指摘しています。その後、新しい知見は得られましたか？

誰もがいじめに巻き込まれるということは、家庭環境や個人的な資質に問題があるかどうかとは必ずしも関係なく、その時々で状況でいじめが起きていることを意味します。そこで、前回の小冊子では、加害行為と関連の深い要因として、ストレスやストレスラー(ストレスをもたらす要因)の存在を指摘してきました。

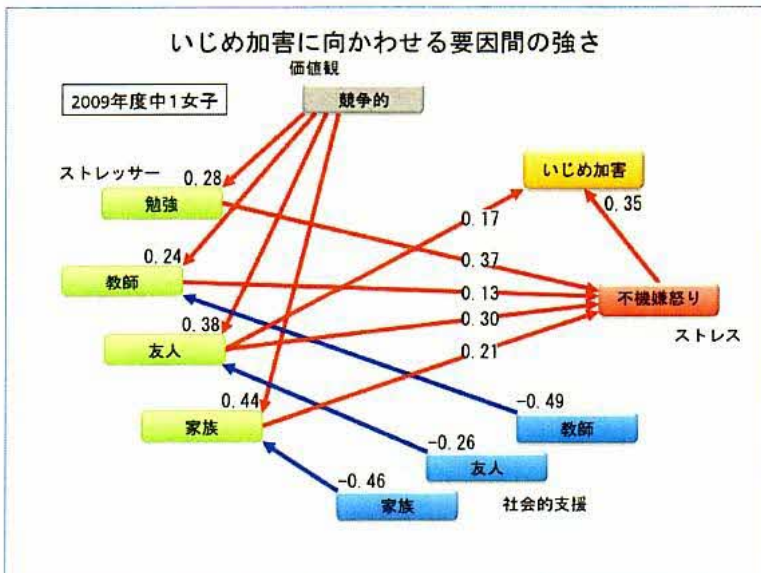
今回は、その議論を一步進める形で分析を行った結果を紹介します。まず、いじめの加害経験と関連の深い(相関係数の大きい)要因を選び出し、それらの要因間に想定される影響の道筋(パス)を仮定します。今回の調査では、ストレスやストレスラーがいじめにつながるという先行研究を踏まえ、下の図に示したようないじめ発生のメカニズムを想定した調査票が使われています(これを、いじめ－ストレスモデルと呼んでいます)。調査によって実際に得られたデータをこのモデルにあてはめてデータ処理(共分散構造分析)を行い、要因間の関係の強さを見たのが右頁です。



※赤色の矢印は対照となる事象を促進するように働くことを、青の矢印は抑制するように働くことを、それぞれに示している。
※各要因を測定する尺度(調査項目)は下の表の通り。

○尺度と調査票の質問項目

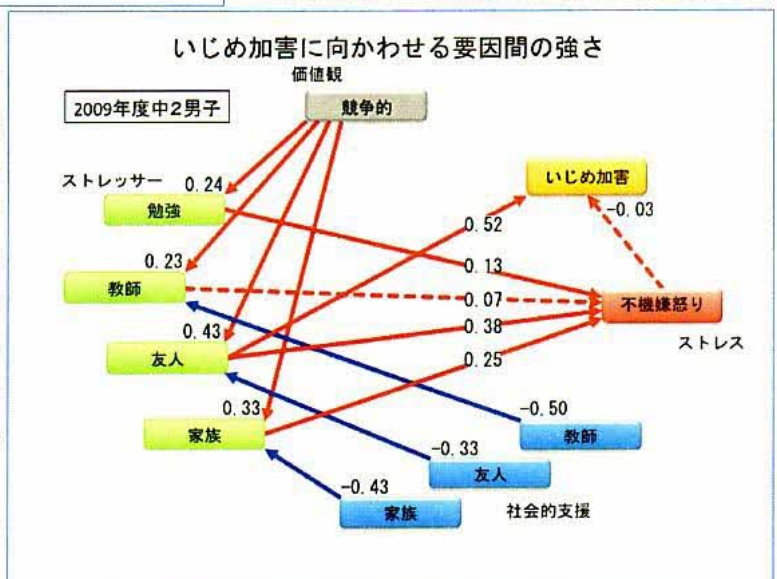
- 〈いじめ加害の尺度〉
- 仲間はずれにしたり、無視したり、陰で悪口を言ったりした
 - からかったり、悪口やおどし文句、イヤなことを言ったりした
 - 軽くぶつかったり、遊ぶふりをして、叩いたり、蹴ったりした
- 〈ストレスの尺度〉
- (不機嫌怒り)
- いらいらする
 - ふきげんで、おこりっぽい
 - だれかに、怒りをぶつきたい
- 〈ストレスラー(ストレスの原因)の尺度〉
- (勉強)
- 授業中、わからない問題をあてられた
 - 授業が、よくわからなかった
 - テストが返ってきて、点数が悪かった
- (教師)
- 先生が、よくわけを聞いてくれずに、おこった
 - 先生が、相手にしてくれなかった
 - 先生が、えこひいきをした
- (友人)
- 勉強のことで、友だちにからかわれたり、ばかにされたりした
 - 顔やスタイルのことで、友だちにからかわれたり、ばかにされたりした
 - 自分のしたことで、友だちから悪口を言われた
- (家族)
- 家の人が、成績や勉強のことをうるさく言った
 - 家の人が、友人関係や生活面のことをうるさく言った
 - 家の人の期待は大きすぎると感じた
- 〈社会的支援の尺度〉
- (教師から)
- もし、あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる
 - もし、あなたが、悩みや不満を言っても、イヤな顔をしないで聞いてくれる
 - ふだんから、あなたの気持ちを、よくわかろうとしてくれる
- (友人から)
- もし、あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる
 - もし、あなたが、悩みや不満を言っても、イヤな顔をしないで聞いてくれる
 - ふだんから、あなたの気持ちを、よくわかろうとしてくれる
- (家族から)
- もし、あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる
 - もし、あなたが、悩みや不満を言っても、イヤな顔をしないで聞いてくれる
 - ふだんから、あなたの気持ちを、よくわかろうとしてくれる
- 〈価値観の尺度〉
- (競争的)
- これからの世の中では、勉強の成績が悪いとみじめだ
 - これからの世の中では、顔やスタイルがよくないとみじめだ
 - これからの世の中では、人よりも得意なことがないとみじめだ



たとえば、2009年度の中学1年生の場合、左の図のような結果が得られました。まず、「競争的価値観」が強いほど、「勉強ストレス」「教師ストレス」「友人ストレス」「家族ストレス」を感じやすくなり、他方で「教師からの支援」「友人からの支援」「家族からの支援」が強いほど、それぞれのストレスを感じにくくなる。そして、こうした様々なストレスが「不機嫌怒りストレス」を経由して、「いじめ加害」に結びつく。さらに、「友人ストレス」は、直接にも「いじめ加害」に向かわせる働きをする — という道筋が想定できます。

それに対して、同じ2009年度の中学校2年生

の男子の場合、やや異なる道筋が示されています(右図)。「競争的価値観」が強いほど、ストレスを感じやすくなり、他方で「教師からの支援」「友人からの支援」「家族からの支援」が強いほど感じにくくなる。そして、ストレスが強いほど、「不機嫌怒りストレス」を高める — ここまでは同じです。ただし、「教師ストレス」の「不機嫌怒りストレス」に対する影響は、必ずしも強くはない(統計学的に有意ではない)し、「不機嫌怒りストレス」も「いじめ加害」に影響を及ぼしません(共に、破線で表示)。「いじめ加害」に結びつくのは、もっぱら「友人ストレス」であり、他のストレスは無関係と考えられます。



2007～2009年度の小学校4年生～中学校3年生までの男子と女子、計36組(3年間×6学年×2種類)にどのような道筋が確認できるかを調べてみると、36組のうち、①23組は各種ストレスが「不機嫌怒りストレス」経由で間接的に、さらに「友人ストレス」は直接的にも、「いじめ加害」に影響を及ぼしており(左上の図のタイプ)、②13組は「友人ストレス」だけが「いじめ加害」に直接に影響を及ぼしている(右下の図のタイプ)、ということが分かりました。ちなみに、すべてのストレスが必ず「不機嫌怒りストレス」に影響するわけではなく、36組中25組では「教師ストレス」、12組では「勉強ストレス」、6組では「家族ストレス」、2組では「友人ストレス」(以上、重複あり)が影響を及ぼしていませんでした。つまり、「いじめ加害」に向かわせる要因はある程度まで特定されているものの、実際にどの要因が強く働くかは時々の状況によって異なり、そこに学年進行や男女差等による一貫した傾向は見られません。

ただ、「いじめ加害」に対する影響には、直接的なものだけではなく、間接的なものもあります。たとえば、「競争的価値観」は、直接には「いじめ加害」に影響を及ぼしませんが、各種ストレスを高めることで「不機嫌怒りストレス」や「いじめ加害」に間接的に影響を及ぼしていることに注意すべきです。直接的な影響(直接効果)と間接的な影響(間接効果)の合計を総効果と呼びますが、この総効果を順位で比較することで、何が影響力を持っているかを判定してみましょう。

まず、最も影響を与えていると考えられるのは「友人ストレス」です。36組中31組で第1位、5組で第2位の影響力を持っており、直接的にも間接的にも影響力が大きい要因です。次に、「競争的価値観」です。間接効果しかないにもかかわらず、36組中2組で第1位、19組で第2位、15組で第3位の影響力を示しています。そして、様々なストレスの影響を受ける位置にある「不機嫌怒りストレス」は、36組中3組で第1位、11組で第2位、14組で第3位あることが分かります。どうやら、この3つの要因がいじめの未然防止の鍵と言えそうです。

大人のいじめ対応姿勢 5 力条

(1) いじめられっ子に非なし

<どんな場合でもいじめられっ子に寄り添う>

(2) 周辺こそがいじめの元凶

<いじめる子よりも周りの子への働きかけが大切>

(3) 昨日と違うちょっとした様子こそ発見の決め手

<深刻な時ほど子どもは訴えないので、それに気づく感受性が必要>

(4) いじめの輪から新たな輪へ

<既存の集団と異なる新しい集団や世界を提供する>

(5) いじめっ子だって泣いている

<いじめる子の抱えるストレスにも目を向けて>

(鳴門教育大学大学院 教授 阪根健二 氏 監修)